【事業名】国内希少動植物種ヒュウガシケシダ・ヒュウガタイゲキ等保全事業（宮崎県）　【団体名】宮崎植物研究会

令和6年度　生物多様性保全推進支援事業
実績報告書別紙10－６

事業の背景・目的

宮崎県内には「種の保存法」に基づく国内希少植物種13種の自生が確認されているが生育の現状把握さえも不十分である。このため、宮崎植物研究会がこれまで保全に取り組んできたヒュウガタイゲキに加えて、ヒュウガシケシダ、タコガタサギソウ、ヒナヒゴタイ、ハツシマランを対象種にし、自生地での生育環境や生育状況、個体数等を調査する。さらに調査結果を検討して今後の保全計画を策定する。また、保全計画に沿って保全対策を実施し、これら国内希少植物種の安定的な保全に資する。

事業の内容

・実績報告書（別紙10－３）を基に、実施した事業結果の概要を簡潔に記載。事業が複数ある場合や、複数年度にわたる場合には、枠囲みを用いるとわかりやすい。

事業①　保全事業（積極的保全）
・ヒュウガタイゲキは7月と2月に保全活動を行い、生育阻害要因の他種（ススキ、ネザサ、クマイチゴ）の除去に努めた。
・ヒュウガシケシダは2市村で3ヶ所の自生地があるが、生育良好な1ヶ所では7月と12月に高茎草本や低木の除去を行った。昨年災害のあった1ヶ所では森林管理署と検討し、シカネットを再設置した。

事業①　保全事業（見回り保全）
・タコガタサギソウは9月に見回り保全活動を実施した。
・ヒナヒゴタイは11月に見回り保全活動を実施し、種の保存のため一部種子の冷凍保全を12月に行った。
・ハツシマランは7月に見回り保全活動を実施し、大雨で斜面から流亡しつつある個体の緊急移植を行った。

得られた成果

・ヒュウガタイゲキは宮崎植物研究会の保全活動で自生地が維持できている（91株）が、本事業を活用することでより生育地の環境が良化しつつある。地元役場との連携も進め、住民参加型の保全活動の展開も試みたい。
・ヒュウガシケシダは３ヶ所の自生地があり、１ヶ所は生育順調で保全活動も順調、１ヶ所は大雨災害後に森林管理署と相談しシカネットを再設置、１ヶ所は現状維持で見回り保全中である。今後も生育地毎の特性に応じた保全を行っていく。
・タコガタサギソウは極めて個体数が少ない上に夏期の高温干ばつで絶滅寸前になっている。自生地での保全は困難。
・ヒナヒゴタイは採草地に生育し地域で野焼きを実施することで個体数が維持できているが、住民の高齢化と夏期の高温干ばつで生育株数が激減している。自生地の部分的な保全または地域外保全が必要と思われる。
・ハツシマランは国有林の不安定な斜面に少数生育し大雨災害等を受けやすいため定期的な見回り保全が有効である。地域外保全も考慮。